

AGRICULTURE
SUPPORT
CENTER

JA あいち 経済連

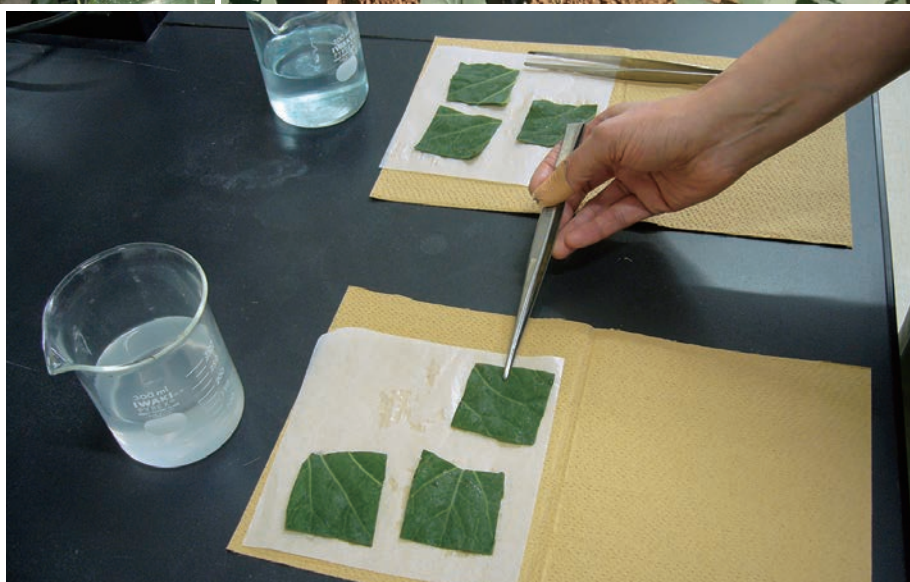
明日の農業を支える情報誌

No. 200



ありがとう!

営農支援センター
30周年
&
情報誌ASC
200号



- 営農支援センター設立30周年&情報誌ASC200号発行 特集記事
- イチジク養液ポット栽培における結果枝本数・誘引方法の検討
- 難防除害虫に対する薬剤感受性検定結果について
- 露地野菜研究会での生産コスト低減に向けた実証について
- おすすめ資材・技術のご紹介 ～春先に活躍する資材を集めました～

営農支援センター設立 30周年！ 情報誌ASC 200号発行！！

営農支援センターは平成4年4月に設立し、令和4年4月で設立30周年を迎えました。

また、設立に伴い発行を開始した情報誌ASCも、今回で200号となります。

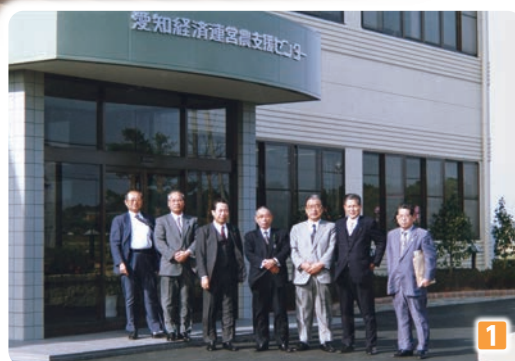
そこで、営農支援センターの30年を、
情報誌ASCの記事を中心に振り返ります。

【 】内は関連する記事が掲載されている
情報誌ASCの発行ナンバーになります。

1992

----- 平成4年4月

- 営農支援センター設立 **1**
- ※栽培実証、無機成分分析、
病虫害診断業務開始
- 情報誌ASC No.1号発行 **2**



鈴木礼治愛知県知事(当時) 来館



情報誌ASC No.1

営農支援センター初期メンバーである経営企画部河合部長に伺いました



【情報誌ASC No.2】

ASC開設当初は、山土を客土して造成した関係でひたすら圃場の石を拾っていました。また、露地野菜や施設果菜類・花きの栽培実証で普通に栽培することができず、農家の栽培技術のすごさを痛感しました。現在では、農家の栽培レベルと遜色なく多収栽培などの実証結果を出せていると思います。今後も、新しい栽培技術等の実証により、農家での新技術導入時のリスク軽減と農家の経営に貢献できる技術の普及に向けた機能発揮を期待します。

----- 平成5年 露地野菜の機械化一貫体系の実証【情報誌ASC No.24】

----- 平成10年 農薬の薬剤感受性検定結果初掲載【情報誌ASC No.92】

----- 平成11年 残留農薬分析開始【情報誌ASC No.124】 **3**

----- 平成12年 情報誌ASC No.100号発行
イチゴゆりかごシステムの実証成果掲載【情報誌ASC No.130】 **4**

2002

----- 平成14年 イチジクコンテナ隔離栽培の実証【情報誌ASC No.121】

----- 平成18年 省エネ特集号発行【情報誌ASC No.146,149,153,155,158】

----- 平成19年 新野菜の実証【情報誌ASC No.154】



残留農薬分析装置 GC-MS(当時)



イチゴゆりかごシステム

2012

平成24年 トマト高軒高ハウスによる養液栽培の実証【情報誌ASC No.169】

平成28年 キュウリ養液栽培の実証【情報誌ASC No.183】

平成29年 場内施設更新【情報誌ASC No.184,185】
ナス養液栽培の実証【情報誌ASC No.184】

平成30年 東京大学連携 植物病院®開設

2022

令和4年 営農支援センター設立30周年

令和5年 情報誌ASC No.200号発行



場内施設更新



営農支援センター設立30周年、情報誌ASC200号の発行を迎えて

営農支援センター 所長 河野 恒賢

県内の園芸産地から主要作物の新しい栽培技術や次々に開発される資材などの有効性や応用手法について、JAグループ愛知として検証・実証を通じた産地導入のチェック機能を果たして欲しいという要望を受け平成4年度に設立しました。今年度で30年の節目を迎えることとなり、ご支援いただいた関係者の方々に感謝申し上げます。

農業を取り巻く環境は厳しい状況下にありますが、栽培技術は日進月歩で進化しています。その変化に乗り遅れることなく、最前線の高品質生産技術の開発・実証をすすめ、普及のための情報発信や支援に努めてまいります。また、愛知県農産物の各種分析を通じた安全・安心の支援など営農支援センター従業員一同邁進してまいりますので引き続きご支援の程よろしく申し上げます。



これまで発行した
情報誌ASCの
バックナンバーは
営農支援センターHPにて
ご覧いただけます

▲営農支援センターHPはコチラから

情報誌 をクリック

最新号情報

- 最新199号(令和4年11月発行)
 - キュウリ養液栽培における作型と資材に選んだ品種の選定(令和4年度産物の実証)
 - 高軒高ハウスにおける耕起設備のナス栽培方法の検討
 - イチゴ新品種「愛知4号」の栽培実証(令和2年度産物)
 - トマロにおける新たな高収産生産技術(ハウス栽培)の開発
 - 施設ナス栽培における土壌天敵菌(ハダシメシ)の効用実証
 - おすすめ資材・種紹介のご案内

農産物のバックナンバー

名称	巻数	発行年	発行月	発行日
それ以降のバックナンバー	197号	2021年	11月	11月15日
	198号	2022年	1月	1月15日
	199号	2022年	11月	11月15日
	200号	2022年	12月	12月15日

イチジク養液ポット栽培における結果枝本数・誘引方法の検討

JAあいち経済連 営農支援センター 長神 達也

はじめに

営農支援センターでは「新たな担い手の確保・育成」と「高収益経営モデルの確立」を目的とし、イチジク養液ポット栽培技術の確立に取り組んでいます。R3年度作では、定植1年目から10aあたり2.3tを収穫できることを実証しましたが、着色不良など品質面に問題がありました。その理由として、株当たりの結果枝が1本の状態では樹勢が強くなりすぎることが原因と考えられました。そこでR4年度作では、1年目株における結果枝2本出しによる樹勢安定と収量増加の検討、2年目株において結果枝2本の誘引方法の違いによる収量と着色改善への影響を調査しました。以下にその結果を報告します。

1. 方法

- (1) 展示場所：D号棟（丸形パイプハウス（POフィルムハウス）
間口6m×奥行30m、栽培面積216㎡、棟高3m）
- (2) 供試品種：「榊井ドーフィン」
- (3) 培地：イチジクコンテナ培土（8ℓポリポット）
- (4) 試験区：①結果枝本数試験（定植1年目株）
結果枝1本区（1枝/株）
結果枝2本区（2枝/株）
②誘引方法試験（定植2年目株）
V字区
U字区



- (5) 耕種概要

1年目株	2年目株
挿し木：1月13日	保温開始：2月28日
定植：4月6日	収穫開始：7月8日
収穫開始：7月13日	収穫終了：10月31日
収穫終了：10月31日	

2. 結果

(1) 結果枝本数試験（定植1年目株）

①収量

1年目株の結果枝本数試験での総収量は、結果枝1本区が3.5 t/10 a、2本区が4.5 t/10 aで、2本区の方が収量が多くなりました。平均果重は1本区が103.8 g、2本区が89.9 gで、1本区の方が重くなりました。

表1. 各区の10aあたり収量と平均果重

試験区	10aあたり収量(t)	平均果重(g)
結果枝1本	3.5	103.8
結果枝2本	4.5	89.9

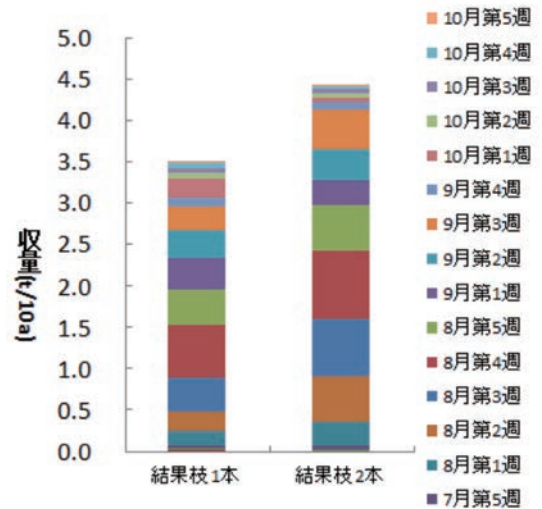


図1. 時期別収量（結果枝本数試験）

②樹勢

柵井ドーフィンの適性な樹勢の目安は、収穫終了時の結果枝基部径20~25mmが指標の一つとなっています。しかし、今回の栽培では、基部径は1本区で平均37.2mm、2本区で平均32.3mmで、両区とも明らかに強樹勢となりました。特に1本区が顕著でした。

表2. 基部径（結果枝本数試験）

試験区	基部径(mm)
結果枝1本	37.2
結果枝2本	32.3

(2) 誘引方法試験（定植2年目株）

①収量

V字区で5.6 t/10 a、U字区で6.3 t/10 aとなり、U字区で収量が増加しました。平均果重は、V字区が101.4 g、U字区は101.2 gで差はありませんでした。ポット当たりの節数がV字区は54節に対し、U字区は62節で収穫段数を多く確保することができたため、収量が多くなったと考えられます。着色については、両区に差は見られませんでした。

表3. 各区の10aあたり収量と平均果重

試験区	10aあたり収量(t)	平均果重(g)
V字	5.6	101.4
U字	6.3	101.2

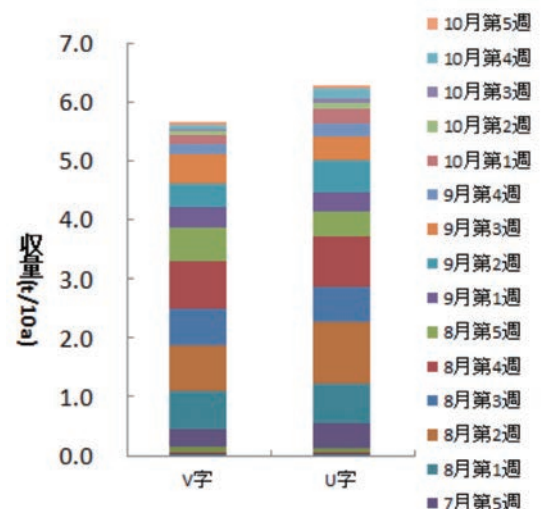


図2. 時期別収量（誘引方法の検討）

②樹勢

収穫終了時に結果枝基部径を測定しました。V字区は平均30.7mm、U字区平均32.9mmで、どちらも目安である25mmを超えており、樹勢は強いと判断しました。

表4. 基部径 (誘引試験)

試験区	基部径 (mm)
V字	30.7
U字	32.9

③糖度

V字区で平均13.4° Bx、U字区12.9° Bxとなりました。土耕栽培での平均糖度13~14° Bxに比べ、同等かやや低い結果となりました。この理由としては、強樹勢に加えかん水過多により水っぽい果実となったことが考えられました。U字区は、下段部分の果実が葉の影になりやすく、V字区より糖度が低くなった可能性が考えられました。

表5. 各区の平均糖度と最大最小糖度 (° Bx)

試験区	最大	最小	平均
V字	14.6	12.1	13.4
U字	15.1	11.5	12.9

3. 高温障害果の発生

1年目株2年目株とも20節前後から高温障害果が発生しました。その要因として、強樹勢樹が35℃以上の高温条件や水分ストレスを受けると発生が助長されるという報告(福岡農試)があります。症状は、果実の小花(果肉部分)が赤くならず、糖度が低くなります。今回の発生は、給水不足はなかったと思われるので、強樹勢と高温により発生したと考えられました。

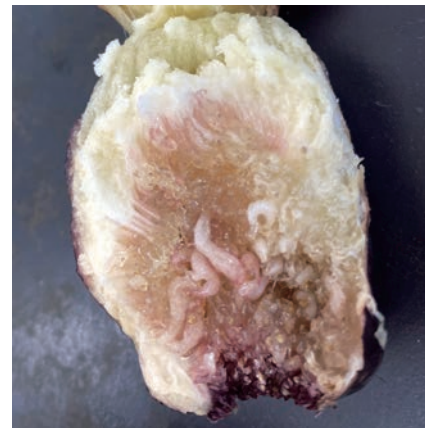


写真1. 高温障害果

まとめ

結果枝本数試験では、定植1年目から結果枝2本出し栽培が可能で1本出し栽培より収量が多いことがわかりました。誘引方法試験では、U字に誘引することでV字より収穫段数が多くなり、6.3 t/10 aと高い収量が確保できました。しかし、すべての試験区で、基部径が太いことから樹勢が強過ぎることが、高温障害果の発生や、着色不良、糖度の低下を助長したと考えられました。

令和5年度作では「①強樹勢の回避と糖度の向上に向けた、培養液濃度の見直しとかん水量の削減」「②収穫出荷時期の早期化に向けた、挿し木・保温開始時期の検討」に取り組みます。

難防除害虫に対する薬剤感受性検定結果について

JAあいち経済連 営農支援センター 窪田 尚正

はじめに

愛知県はアブラナ科野菜の有数な生産県で、特にキャベツは作付面積、出荷量共に全国トップクラスです。営農支援センターでは、アブラナ科野菜に甚大な被害を及ぼすチョウ目害虫を始め、県下の主要作物に対する難防除害虫の薬剤感受性検定を行い、防除薬剤の検討材料としてJAに情報提供しています。

本稿では、令和4年度に実施したコナガ、ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウに対する薬剤感受性検定の結果について紹介します。



コナガの幼虫



ハスモンヨトウの幼虫



シロイチモジヨトウの幼虫

1. 試験方法

(1) 供試虫

各地域で採集し、室内飼育した次世代の2～3齢幼虫を使用しました（表1）。

表1. 供試虫の採集場所と採集日

検定害虫	No	採集場所	採集日
コナガ	①	田原市六連町	令和4年5月17日
コナガ	②	田原市西山町	令和4年5月17日
ハスモンヨトウ	③	豊田市猿投町	令和4年8月30日
ハスモンヨトウ	④	田原市小中山町	令和4年9月13日
シロイチモジヨトウ	⑤	田原市童浦町	令和4年9月13日

(2) 処理方法

薬剤を浸漬処理したキャベツ葉を用いて、1区5頭の3反復で実施しました。薬液には展着剤（クミテン4,000倍）を加用しました。処理後は25℃の恒温室（16L 8D）で飼育しました。（16L 8D：16時間明条件，8時間暗条件）

(3) 調査方法

処理6日後に生死虫数を調べ、アボットの補正式により補正死虫率を算出しました。

（アボットの補正式）

$$\text{補正死虫率 (\%)} = \frac{\text{薬剤処理区の死虫率} - \text{対照区の死虫率}}{100 - \text{対照区の死虫率}} \times 100$$

2. 検定結果

「表2 処理6日後の補正死虫率」参照

※本稿は営農支援センターの業務紹介を目的としています。

※昆虫の薬剤感受性は採集ほ場（品目）、採集時期により異なります。試験結果は、愛知県下のコナガ、ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウの薬剤感受性を代表するものではありません。

※農薬は必ず登録内容をご確認の上ご使用ください。

3. まとめ

- (1) コナガ：2地域とも高い感受性を示した薬剤は、スピノエース顆粒水和剤、ディアナSC、アフーム乳剤、アニキ乳剤、ゼンターリ顆粒水和剤、エスマルクDF、ファルコンフロアブル、トルネードエースDF、グレーシア乳剤、ブロフレアSCおよびファインセーブフロアブルでした。

中でも、スピノエース顆粒水和剤、ディアナSC、アフーム乳剤、ゼンターリ顆粒水和剤、エスマルクDF、グレーシア乳剤およびブロフレアSCは、処理3日後に補正死虫率が100%となり、防除効果に速効性がみられました。

- (2) ハスモンヨトウ：2地域とも高い感受性を示した薬剤は、トレボン乳剤、アニキ乳剤、コテツフロアブル、マッチ乳剤、アクセルフロアブル、フェニックス顆粒水和剤、プレバソソフロアブル5、ベネビアOD、ヨーバルフロアブル、グレーシア乳剤およびブロフレアSCでした。

中でも、アニキ乳剤、コテツフロアブル、グレーシア乳剤およびブロフレアSCは、処理3日後に補正死虫率が100%となり、防除効果に速効性がみられました。

- (3) シロイチモジヨトウ：高い感受性を示した薬剤は、スピノエース顆粒水和剤、ディアナSC、アニキ乳剤、コテツフロアブル、マッチ乳剤、トルネードエースDF、アクセルフロアブル、ベネビアOD、ヨーバルフロアブル、グレーシア乳剤、ブロフレアSCおよびプレオフロアブルでした。

中でも、スピノエース顆粒水和剤、ディアナSC、アニキ乳剤、コテツフロアブル、グレーシア乳剤およびブロフレアSCは、処理3日後に補正死虫率が100%となり、防除効果に速効性がみられました。

- (4) 共通：全てに共通して高い感受性を示したのは、アニキ乳剤、グレーシア乳剤およびブロフレアSCでした。グレーシア乳剤およびブロフレアSCは、いずれも希釈倍数の10倍（20,000倍）の濃度でも高い感受性を示していることから、残効も期待できます。

一方で、害虫の種類ごとに感受性が大きく異なる薬剤があるため、薬剤選択では対象害虫を考慮し、効率的な防除を行う必要があります。

表2. 処理6日後の補正死亡率

系統または代表的有効成分	IRAC	薬剤名	倍率	コナガ			ハスモンヨトウ		シロイチモジヨトウ
				①	②	③	④	⑤	
カーバメート 有機リン 合成ピレスロイド	1A	ランネート45DF	1,000	-	-	○	-	-	
	1B	エルサン乳剤	1,000	○	△	○	△	-	
	3A	トレボン乳剤	1,000	-	-	○	○	-	
スピノシン	5	スピノエース顆粒水和剤 ディアナSC	2,500	-	-	×	×	○	
			5,000	-	-	-	-	-	
			2,500 25,000	○ -	○ -	○ -	○ ×	○ -	
マクロライド	6	アフアーム乳剤 アニキ乳剤	1,000	○	○	-	○	×	
			2,000	-	-	△	○	×	
			1,000	○	○	○	○	○	
BT	11A	ゼンタリー顆粒水和剤 エスマルクDF フローバックDF サブリナフロアブル デルフィン顆粒水和剤 トアローフロアブルCT コテツフロアブル カスケード乳剤 マッチ乳剤	1,000	○	○	×	×	×	
			1,000	○	○	-	-	-	
			1,000	-	-	△	-	-	
			500	-	-	×	-	-	
			1,000	-	-	×	-	-	
			1,000	○	○	-	-	-	
			2,000	×	△	○	○	○	
ベンゾイル尿素	15	カスケード乳剤 マッチ乳剤	2,000	○	△	-	-	-	
			2,000	○	-	-	-	-	
			3,000	-	-	○	○	○	
ジアシルヒドラジン	18	ファルコンフロアブル	2,000	○	○	○	-	-	
			1,000	○	○	-	-	×	
オキサジアジン	22A	トルネードエースDF	2,000	○	○	-	-	-	
			2,000	○	○	○	○	○	
セミカルバゾン テトロン酸およびテトラミン酸誘導体	22B	アクセルフロアブル モベントフロアブル フェニックス顆粒水和剤 プレバソフロアブル5 ベネビアOD	1,000	○	○	○	○	○	
			2,000	○	○	-	-	-	
			2,000	-	-	○	○	×	
ジアミド	28	プレバソフロアブル5 ベネビアOD	2,000	△	△	○	○	△	
			2,000	○	○	○	○	○	
イソオキサゾリン	30	グレーシア乳剤	2,500	○	○	○	○	○	
			2,000	○	○	○	○	○	
メタジアミド	30	プロフレアSC	20,000	○	○	-	-	○	
			2,000	○	○	○	○	○	
フロマトキン ピリダリル	34 UN	ファインセーブフロアブル ブレオフロアブル	1,000	○	○	-	-	-	
			1,000	○	○	○	×	○	

※ 補正死亡率指標 ○：100% ○：99~80% △：79~50% ×：49%以下

※ 表中の「-」は該当データなし

※ 処理3日後以降は、餌用キャベツ葉（無処理）を適宜追加した

露地野菜研究会での生産コスト低減に向けた実証について

JAあいち経済連 営農支援センター 長神 達也

はじめに

愛知県では東三河地域を中心にキャベツやブロッコリー等の露地野菜が広く栽培されています。今後、農家の減少が懸念される中、産地維持に向けた経営規模の拡大と更なる機械化が求められています。また、世界経済の不安定化により、肥料などの生産コスト高騰対策も課題となっています。令和4年度の露地野菜研究会では、JA・県・経済連が一体となり、キャベツ・ブロッコリーにおける11項目の生産コスト低減テーマに取り組んでいます(表1)。本稿では、営農支援センターが取り組んだ「作業時間・肥料コストの低減を目指した、キャベツ畝立て同時施肥施薬機の実証」および「規模拡大のための圃場の排水対策」について報告します。

表1. 生産コスト低減メニュー

No.	テーマ	取組具体策	分担
1	ブロッコリーの一斉収穫に適した品種・栽培方法の検証	基肥、追肥の施肥量を変えた場合の斉一性の検証	東三河農業研究所
2	パワーハローによる排水性対策	パワーハローとトラクタ踏み固めの比較	東三河農業研究所
3	キャベツ乗用型全自動移植機の作業性の確認	歩行型移植機と乗用型移植機の作業性比較	東三河農業改良普及課
4	キャベツ育苗期の肥培管理の検討	200穴セルトレイによる育苗期の肥培管理について検証	田原農業改良普及課
5	キャベツ乗用移植機の効果的な使用方法の検証	枕地を作ることでの作業時間短縮について検証	田原農業改良普及課
6	キャベツ畝立て同時施肥施薬機の使用によるコスト低減実証	畝内、畝立て同時施肥施薬機の使用による肥料農薬2割低減実証	営農支援センター
7	排水対策の検証	簡易的な暗渠と明渠の施工による排水効率の検証	営農支援センター
8	ストロングリキッドの効果確認	苗にストロングリキッドを葉面散布し、生育への影響を確認	営農支援センター
9	キャベツ施肥体系の見直し	鶏糞・L型肥料等低コスト資材の活用による低コスト施肥体系の検討	田原農業改良普及課
10	根こぶ病に対する総合防除体系の検討	耕種的防除：土壤改良剤の検討（ミネカル、石灰） 化学的防除：薬剤選定	東三河農業改良普及課
11	根こぶ病に対する総合防除体系の検討	土壤改良剤の検討 薬剤の効果的な使用時期の検討	田原農業改良普及課

1. キャベツ栽培における畝立て同時施肥施薬機を使用した肥料・農薬のコスト低減

(1) 試験概要

今後も肥料価格の高騰が続くと予想される中、生産コスト低減のために化学肥料の施用量低減が求められており、化学肥料施肥量の低減は、環境負荷の軽減にもつながります。そこで、畝立て同時施肥施薬機を使用し、「基肥施肥量を3割、土壤殺菌剤を2割低減しての栽培が可能か」の調査を開始しました。

(2) 耕種概要・試験区

使用品種：「ゆいな」

播種：令和4年9月30日

定植：令和4年10月14日

追肥：1回目；令和4年12月12日 2回目；令和5年3月10日

調査：令和5年4月予定

試験区

(kg/10a)

	元肥	追肥1回目	追肥2回目	施肥量(N-P-K)	土壌殺菌剤
畝立て同時施肥・施薬区	70	60	40	26 : 6 : 25	30
畝立て同時施肥・全面施薬区	70	60	40	26 : 6 : 25	40
全面施肥・施薬区	100	60	40	30 : 8 : 29	40

元肥「豊橋みどり」(N-P-K:14-6-14)、追肥「わかばの友追肥用」(N-P-K:16-2-15)
殺菌剤(根こぶ病対策)「フロンサイド粉剤」(作条土壌混和処理)

2. 耕盤層の破壊による排水性の向上

サブソイラーおよびエアインジェクターを使用し、耕盤層の破壊を行い明渠と暗渠をつなげるための排水対策を実施しました。

この作業を雨天時前に行う事で、排水性を高め降雨後の圃場に入れない(作業の出来ない)時間を短縮し作業効率を高めることにより規模拡大が可能となります。

今後も実証を継続し、得られた実証成果については、改めて報告させていただきます。



写真1. エアインジェクターによる暗渠施工

3. その他の活動

収穫作業や重量物を取り扱う際の腰への負担軽減を目的として、愛知県農業試験場と株式会社ジェイテクトが共同開発を行いました。

このアシストスーツは重さ約2kgで、1回の充電で4時間以上使用が可能です。使用感としては、重いものを持ち上げる際、後ろから引っ張られるような感覚があり、持ち上げている感覚は、ほぼありません。

アシストスーツは、経済連農業機械課が11月から販売を開始しています。



写真2. アシストスーツ実演の様子

まとめ

生産コストの低減に向け、現地課題を摘出し、JAや県、経済連が分担して実証を開始しました。今後、成果が認められた課題については、関係機関を通じて農家へ情報提供していきます。また、令和5年度においては、大規模化に向けた機械化体系の確立を目指した取り組みも進めていきます。

おすすめ資材・技術のご紹介

～ 春先に活躍する資材を集めました ～

JAあいち経済連 新技術普及課

IPM資材

～春先に増える厄介な害虫対策に～

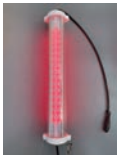
<IPM (Integrated Pest Management) とは>

化学農薬のみに頼らない多角的・総合的な方法で人や環境へのリスクを抑えた防除を行うことです。

<主な害虫とおすすめIPM資材>

●ミナミキイロアザミウマ

⇒アグリインセクトPF ⇒エコペタ緑



黄色シートよりも誘引効果が高い緑色を採用した粘着シートです。

●コナジラミ類

⇒ラスボスR



●アザミウマ類

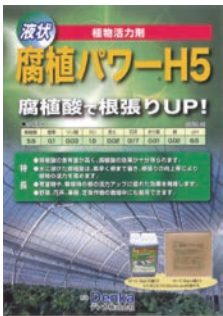
⇒反射シート



地面に敷くと、反射光によりアザミウマ類の飛行が錯乱されハウス内への飛び込みを抑制します。

根張り向上資材

～根張りの向上で春先の萎れ対策に～



●腐植パワーH5

・腐植酸と微量元素を含む液状の植物活力剤です。

<腐植酸の効果>

- ①根の生育を促進します。
- ②養分の吸収を促進します。
- ③植物体内の代謝を活性化します。



●PKタフ

・リン酸とカリウムを補給する液肥です。亜リン酸を多く含みます。

<亜リン酸の効果>

- ①通常のリン酸と比べて分子量が小さいため、植物に吸収されやすいです。
- ②土壌に吸着されにくく、植物に利用されやすいです。

・花芽充実/着果促進効果も期待できます。

生分解マルチ

～微生物が分解する回収不要なマルチ～



■ 土にすき込むことで微生物により分解されるため回収作業が不要です。

■ 長期保管はできないため、購入後は速やかにご使用下さい。

<栽培実績>甘藷、馬鈴薯、里芋、玉ねぎ、かぼちゃ、キャベツ、白菜、とうもろこし、ブロッコリー、にんにく、ごぼう、そらまめ、えだまめ、実えんどう等



JA鹿児島経済連
あいさいマルチ紹介

<JAあいち経済連推奨品 >

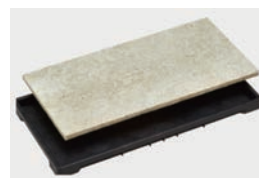
	きえ太郎Z	あいさいマルチ
厚み (mm)	0.015(黒、透明)	0.017(黒)、0.02(透明)
巾 (cm)	95・135・150(主規格)	95・110・135・150黒(主規格)
長さ (m)	200m (一部 400m有り)	200m (一部 50、400、600m有り)
最小出荷本数	3本(主規格)	2本(主規格)

※ほ場条件により分解速度は異なります。

※規格及び有孔品についてはお問合せ願います。

水稻育苗用資材

～軽いロックウールマット&換気不要シート～



日本ロックウール株式会社HPより

●こめパワーマット

- ・水稻の育苗箱の底に敷いて使用します。
- ・保水性が高いため、灌水頻度を減らすことができます。
- ・土苗より約2kg軽くなります。

・健苗を育てる可溶性ケイ酸が40%含まれています。
(主成分:ケイ酸、カルシウム)



旭洋株式会社HPより

●本州太陽シート

- ・並べた育苗箱の上にべた掛けして使用します。
- ・高い反射・遮熱性により、シート下の温度上昇を防ぎます。

(例:ハウス内50℃でもシート下30℃)

・夜間の保温効果とハウスの換気が不要になることで温度が安定し、根張りが向上します。

お問合せ: JAあいち経済連 新技術普及課 0532-47-8206